



# 鹿沼市役所 新庁舎開庁



鹿沼市が誕生して75周年となる節目の年、市役所の新庁舎が完成し、5月8日(月)に開庁を迎えます。新庁舎は、市民の暮らしを守る安全・安心な庁舎とするなど「4つの計画コンセプト」をもとに整備を進めてきました。東日本大震災クラスの大地震にも耐えられる構造とし、エネルギー供給が断絶したときにも、防災機能拠点として対応できる発電機等を設置しました。また、誰もが利用しやすい、明快で使いやすい、機能性と効率性を重視したコンパクトな庁舎とし、地場産材の活用や環境負荷を下げるなど、さまざまな工夫を凝らしています。新庁舎の概要、特徴などを紹介します。

市民の暮らしを守る  
安全・安心な庁舎

■災害対策本部  
災害時の中核機能を果たす防災拠点として、災害対策本部を常設。災害時には各地域の情報収集と共に関心活動や応急活動に必要とする地域に対して、活動要員の派遣や指示、住民への情報提供を行います。

■非常用発電設備を完備  
災害によるインフラ停止に備え、非常用発電機と共に地下オイルタンクには1万リットルの重油を常備。連続で72時間以上発電可能となり、大停電の非常時でも行政機能を維持できます。



■バリアフリー！  
おもいやり駐車場  
身障者利用のため「バリアフリー」駐車場を3台分、高齢者やお子さん連れのご家族に使いやすい「おもいやり駐車場」も5台分用意。

■環境への配慮、ライフサイクルコストを追求する庁舎  
周辺環境とライフサイクルコスト低減の両立  
ライフサイクルコストを追求しながらも、鹿沼の自然・歴史・文化の環境に溶け込む外観を実現。歴史ある鹿沼城跡に建ち、桜の御殿山公園と今宮神社の森に囲まれる新庁舎は、随所に鹿沼の景観を想起させる素材やイメージを尊重



地域資源の活用で、「鹿沼らしさ」を表現する庁舎

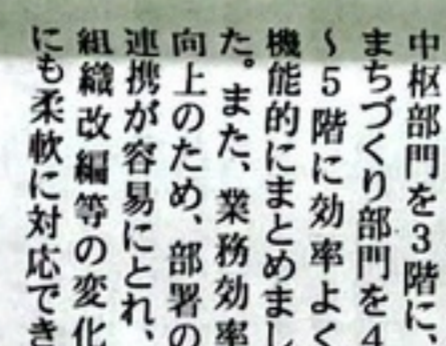
■鹿沼産材の利用  
木のまぢかぬまを象徴する市庁舎として、その内外装に鹿沼産材(認証材)をふんだんに使い、さらに市庁舎内には伝統工芸品である「鹿沼組子」を随所に活用しています。また、議会議棟は別棟での木造化を県内で唯一実現しています。



明快で使いやすい、機能性と効率性を重視したコンパクトな庁舎



■周辺環境とライフサイクルコスト低減の両立  
ライフサイクルコストを追求しながらも、鹿沼の自然・歴史・文化の環境に溶け込む外観を実現。歴史ある鹿沼城跡に建ち、桜の御殿山公園と今宮神社の森に囲まれる新庁舎は、随所に鹿沼の景観を想起させる素材やイメージを尊重



鹿沼市長 佐藤 信氏



鹿沼市役所新庁舎は、5月8日に無事完成・開庁を迎えます

これまでの経過を振り返りますと、新庁舎整備事業は2011年(平成23年)3月に発生した「東日本大震災」を契機に開始しました。建設場所の決定や整備規模・施設設計

きました。市民の皆様をはじめ、市議会、関係各位からなる検討委員会など、多大なるご協力・ご支援をいただいたこと、この

場をお借りして深く感謝申し上げます。新庁舎は、旧庁舎の課題であった、耐震性の不足や狭い問題等を解消することができるとなりました。

十分に維持できるとも、誰もが使いやすいようユニバーサルデザインを重視した設計、「木のまぢ鹿沼」の誇る木工技術の粋(すい)を凝らした木質化、本県唯一の木造議会議棟、シンボルツリーの二本松や深岩石の壁材、壁画など、旧庁舎からの歴史も受け継いだ、中心拠点にふさわ

わしい庁舎となりました。今後は、「笑顔あふれるやさしいまち」、「協働のまちづくり」の拠点として、市民の皆様と共に働き、愛される市役所にしてまいりたいと考えております。

**新庁舎の概要**

所在地 鹿沼市今宮町1688番地1  
敷地面積/9,054.42㎡ 建築面積/2,922.02㎡ 延床面積/10,505.05㎡  
構造/耐震構造・行政棟・鉄骨造 地上6階・議会議棟:木造 地上2階  
ほか 接続廊下、公用車庫、守衛倉庫、駐輪場、ゴミ保管庫、バリアフリー駐車場、受水槽

駐車台数/150台  
設計・監理/堀佐藤総合計画  
施工者/大成建設  
建設事業費/66.3億円